

沖
縄

キリスト教短期大学報

那覇市首里蔵町3-6-1

沖縄キリスト教短期大学

電話 32-5161

発行人 金城重明

編集人 学報編集委員会

印刷所 沖縄コロニー印刷

電話 (77)2096

就職状況概観

不景気といわれる昨今の社会情勢を反映してこれまでにない就職難だといわれる。この期に、フレッシュな感覚と限りない意欲と可能性を持った三五九人の学生が本短大をおえ社会へと飛び立って行く。当然の事ながら学生達は自己の可能性を発揮する場が容易に得られない事に焦り、不安、或は失望を感じているであろう。ここでは、これら学生達をはじめこの事に大きな関心をもつておられる父兄や同窓生や後援会の方々に就職の現況を報告し併せて今後の予想を述べてみたい。

表1が示す通り、就職難といわれながらも本短大の場合むしろ昨年及び一昨年に比べ成績は良いといえる。然し県内の幼稚園や保育園からの求人が年々減少の傾向にあるのは気がかりである。一方英語科は漸次上向の傾向にあるのは嬉しい事である。二百人を越えたといわれる日本航空の入社試験では五人採用の中本短大生四人が決定、南西航空のステューデス三人中三人、事務職三人中二人が決定、その他の企業にも四人が決定し、更に二人が近日中に決定される見込みである。

英語科の場合、伝統的な高い評価と色々な職種に適應できるという特色が今後ますます認められるであろう。一方、保育科の場合、教育内容の優秀さは認められていながらもマーケットがやや飽和の状態にあり、幼稚園や保育所以外の職域にも目を向ける必要がある。教師職や保母職以外の一般企業の領域においても保育の専門知識を身につけた人達を必要とする時代が来つつあると考えるのである。

先に言われた日本秘書技能検定試験に本短大の学生四十一人が受験し、合格者三十四人、合格率八十三パーセントという好成绩をおさめたのも今後の就職を予測する時一つの明るい材料になるであろう。

(学生部)

表1 就職状況

年 科	県内会社			県内幼・保			県外・ 幼・保			計		
	76	77	78	76	77	78	76	77	78	76	77	78
英	4	7	14	0	0	0	3	4	0	7	11	14
保	0	0	3	7	5	8	10	10	15	17	15	26

3月1日現在

3月1日現在

図書館利用一瞥

図書館が大学の「心臓部」と呼ばれ、大学教育のプロセスに統合されて教育に内容と方法を与える役割を担っていることは、周知の事実である。果して本短大図書館はそのような機能を十分に発揮しているのだろうか。七七学年度後期(十月～十二月)の図書館利用実態を通して概観してみよう。

卒業生を送る辞

学長 金城重明



本日ここに第20回卒業式を挙げるに当り、本短大二ヶ年の課程を無事えて巣立ち行く卒業生諸君に、神様の祝福を切に祈るものであります。今日と言う日に、諸君はイエス・キリストの御名によって建てられた「沖縄キリスト教短期大学」の歴史に、貴重な年輪を一つ刻んだわけであります。この年輪は繰り返すことのない歴史の一回性を現わすのです。他の誰でもない、卒業の栄冠を勝ち得た第二〇回卒業生諸君が、本日沖縄キリスト教短大と言ふ二〇才の樹木、新しい年輪を刻んだのであります。その年輪を織り成し形造っているのが、皆さん一人々々が研鑽して来た学問、修得した様々な知識や技術、豊かな交わり、辛かた体験や楽しい思い出等、二ヶ年の学生生活の凡てであります。この様にして卒業生を社会に送り出す度に本短大が年々成長発展していく姿を実感することが出来るのです。その為には、本短大を愛を以て育てその歴史を導いて下さる生ける神様の御力と、本学の教育の理念に賛同し、様々な形で協力を惜し

巻名	発行所	冊数
1 聖書の基礎	福音堂出版	20
2 聖書の歴史	福音堂出版	20
3 聖書の神学	福音堂出版	20
4 聖書の文学	福音堂出版	20
5 聖書の地理	福音堂出版	20
6 聖書の文化	福音堂出版	20
7 聖書の芸術	福音堂出版	20
8 聖書の科学	福音堂出版	20
9 聖書の哲学	福音堂出版	20
10 聖書の政治	福音堂出版	20

表2 貸出冊数(月平均)

人数	冊数
学生	343
教職員	24
学外	7
合計	374

表3 学生貸出状況

人数	冊数
一年生	67
二年生	60
合計	127

表4 主題別貸出状況

区分	冊数
0 総記	4
1 哲学思想	41
2 歴史地理	8
3 社会科学	171
4 自然科学	12
5 工 学	3
6 産 業	3
7 芸術	10
8 語 学	56
9 文 学	129
児童文学	85

以上のように見てくると、一日の入館者数といい、学生一人当りの貸出冊数といい、図書館が大学の教育課程に統合されているとはいえない。現在の図書館のキャパシティーに問題の一端があるのは認めるけれども、本来の利用状況にはほど遠い。■書資料の質量や図書館サービスは恒常的な利用を通してこそ大きく向上していくのである。学生諸君の大きな利用を喚起したい。図書館を知的交流や知的生産の作業場として!

(図書館長)

クリスマス祝会

いささか旧聞に属するが、十二月二日、本短大の最も大きな行事の一つであるクリスマス祝会が行われた。

今回の祝会は従来と趣を変えた。クリスマスマスの意義を考える礼拝と静かなコンサートである。初めての試みなので不安がなくもない。思い切って計画してやって良かったと、今思っている。

コンサートに音楽担当教師や卒業生が協力して下さった。肉声のすばらしさに感動しピアノの音に心をうばわれた。

礼拝をより上げてくれたのは、合唱クラブとコイノニアの諸君である。感謝!

更に特筆すべきは、キャロリングを行った事である。約五〇人が参加したが初経験者も多く、次回からは、もう少し計画性をもって実行したい。

(宗教主任)

感謝録

自1977年4月1日

至1978年1月31日

今学年度もまた、多数の方々から本学院のために多大な献金が寄せられました。御芳名を記し、紙面をもつて深く感謝の意を表明いたします。今後ともなを一層の御協力がいただけますようお願い申し上げます。 1978年3月

理事長 比嘉兼雄 学 長 金城花明

特別寄付金	短大後援会	120,000	知花正勝	10,000	新垣記実枝	10,000	田村千恵子	10,000	亀谷 浩	10,000	大城彦英	10,000
J N A C	比嘉善雄	228,021	金城重明	100,000	教団首里教会	20,000	大城聡助	10,000	金城聡秀	5,000	(以上順不同敬称は省略させていただきます)	
一般寄付金	安谷屋良昌	35,000	新里新行	30,000	金城善信	10,000	松田秀行	20,000	宮里早苗	5,000		
伊集 理	1,510	稲垣和美	10,000	金城朝健	50,000	大湾喜弘	10,000	糸数敦寿美	5,000			
C O C 学校協議会	131,674	山城朝雄	10,000	大城 隆	10,000	渡嘉敷通徳	20,000	友利寛造	10,000			
新川恭子	10,000	城間功雄	10,000	糸数昌恒	50,000	伊藤隆子	5,000	山田義浩	10,000			
具志頭善子	10,000	喜屋武元章	5,000	端ヶ崎長昌	5,000	佐久川寿恵子	5,000	宮平直子	3,000			
津 津・N・	3,000	山 里 子	10,000	前川明美	10,000	大嶺快徳	5,000	仲村 徹	10,000			
ジヨイコブス		岸寛宣恒	10,000	宮城和美	10,000	謝花智子	5,000	翁長朝茂	10,000			
C O C 学校協議会	126,920	宮里松雄	10,000	島袋忠造	20,000	比嘉良仁	20,000	垣花恵三	10,000			
住田武彦	30,000	具志堅典哲	10,000	田崎盛盛	10,000	多和田和子	10,000	大城徳一	10,000			
大城満子	30,000	高良庸子	5,000	大城保徳	3,000	平尾 豊	30,000	佐久川政善	10,000			
		当山伸太郎	5,000	赤嶺義信	10,000	野原美佐子	10,000	与儀 弘	3,000			
		崎山宗廣	20,000			平良洋子	10,000	中村崇正	10,000			

かは、どう生きるかによるのであります。

アメリカの著名な国際政治学者モーゲンソー教授は、或著書の中で、自ら核兵器を造り出し、公害をまき散らして死と破壊の脅威に身をさらしている科学支配的現代の知性に対して警告を与え、人間回復を目指して発想の転換を迫っております。彼は次の様に言明する。「神性に対する意識を内に秘めた人間が一人もいなかったとするならば、地球上における人間存在の意味は失われてしまうだろう。なぜなら、それは人間が天与の使命を見失ってしまうことを意味するからである。・・・現代においては、無限と対話する者こそが、科学の使命の中に人間の使命を自覚している唯一の人間なのである。」と。聖なる超越者、無限との対話を通して、人間存在の意味づけが与えられ、人間に仕える科学の使命が明確化されると言う重要な発言であります。

パスカルは「パンセ」の中で、「人間は自然のなかにあって何ものであるか? 無限にくらべると虚無、虚無にくらべるとすべて、無とすべてとの中間者」と述べている。彼のこの言葉は、宇宙の中で自らの存在を意味づけ、位置づける事の出来ない、迷える地球の現代人を指しているのではなからうか。現代の地球的課題は、失われた人間の回復に他ならない。卒業生諸君、本学で灯した真理の灯火を携え、勇気と希望を以て社会生活の第一歩を踏み出して下さい。

座談会形式による

キリ短生自己分析

学期末テスト直前の二月二日、卒業間近の学生達に、キリ短像について語っていただいた。開学二〇周年、キリ短は今、何処へ行くかとしているのか。学生達の談話を通してその実像と虚像を探索してみよう。

出席者 (アルファベット順)

- 安里久子 (英)
- 具志堅玲子 (保)
- 仲地俊子 (保)
- 中村朝子 (保)
- 大城奈保 (保)
- 島袋弘子 (英)
- 吉本淳子 (英)

一、キリ短像の構造

キリスト教短大は名前だけが有名で、そのクセどこに存るのか場所さえわからない。最初、キャンパスを見た時、これが大学なのかと驚いた。短大というのは小ぢい規模で地味なんだと、一人で納得したのですが、キリスト教だというので、もう不安で一杯でした。

キリスト教だからね、お堅い感じのイメージです。

— そうかなあ

— 高校生の頃は、そんなイメージが友達の間にはババァと広がっていて、こう、小じんまりとした、やや閉鎖的だし、本当にお嬢さん的な花嫁修行学校で、宗教的まじめさというか、すごく大人しくて賢いような人が行くもんだとかネ

キリ短知ったのは中学三年の頃です。姉がキリ短に受験するんで騒いでいましたから。中部では、キリ短の知名度は低いと思います。知っている人は高く評価しているようです。キリ短に進学する気になったのは、姉の友人でキリ短出身のすてきなお姉さまから勧められたから。

社会的には、キリ短の評判はいいと思います。質素であるとか、落着きがあるとか。

— 高二の終わりまでキリ短の存在を知らなかった。女の行く学校で、おんな大学だから内容も程度も低いと思っていた。

— 身内がこの出身だから、割といろいろ知っていました。

キリ短を受験したのは、琉大のスベリ止めと考えていました。私もそうです。でも、保育に目標を決定したら、行くべき方向はもうキリ短しかなかった。

— 高校の時、大学紹介に来られた先生の人がいいわけネ。このキリ短のイメージを全身にかかえていらっしゃる。その人柄にひかれてフラフラと。



二、「学生―教師」交観

入学してみると、先生方と生徒の関係が密接で、この点は、キリ短のよさだと思えます。

確かにそうです。より密接な人間の触れ合いが可能だと思う。

先生方とのこのような交流は私たちにとって、高校時代には考えられないような一番新しいものだと思う。先生方は、学生を受け入れ受け止める態勢を整えているように思う。

でも、そのような親密な触れ合いができた学生は、ごく一部にすぎないのではないかと？

— そうかも知れません。

しかし、先生方は待っていてくれるし、高校時代にはこんなことはまったく無かった。親密な交渉はなかった学生にしても先生方が学生を受け入れる姿勢にあり、配慮しているんだということは知っているはずですよ。

— そうね。キリ短にはぎゅっくらんな先生方が多い。いつでもいらっしゃい、研究室はいつでも開いているから、と口グセの

ようにおっしゃっている

— その割には、オフィス・アワーの利用度は低い様ですが？

— オフィス・アワーなどと時間を限定されると窮屈です。私達は授業のあい間にしか動かせないので。空き時間には一緒にお茶でも飲みに行きたい。時には飲み会などにも行きたいな。

三、低い学習モラル

一年の時は、リポートだとかに精一杯でしたが、二年になってやっと余裕ができて先生方もじっくり観ることができ、つきあひもできるようになった。と思つたらもう卒業、ウソみたい授業の様子とかコツがわかったと思つたら、あと一カ月で授業が終りということになった

特に保育科の場合は、B・Cプランで三カ年分を二カ年でやっちゃうからやたらと忙がしい。リポートだ、クラブだ。行事が押し寄せてくる。

— 短大を三カ年制にしよう。

— 二カ年が三カ年になつても同じだと思ふ。いっそ四年制にしよう。初め講義に出た時がっかりした。英文法などの教科書が幼稚すぎて、これが大学の授業なのかとね。気を取りなおしたりしたものの退学しようかどうかと夏休みまで葛藤していた。

— 哲学がやりたかったんです。大学で。サルトルとか読んでいて、そのことをクラスで話したら、サルトルって誰？なんて尋かれて、ガーンと。こう、ここでは哲学の話のできる人は得られない。

— 本当にそうだと思います。学生の反応が女子短大や沖大とは違う。哲学とか政治にうといというか、非常に関心が薄い。

— 先生方に対して、別に親密な人間関係ができるなんて考えていません。教師は教師にすぎませんから。

— また、勉強できる場所ではない。大学は勉強ばかりでなく、人間関係云々などといわれるが、それは大義名分にすぎない。大学はまず勉強する所です。

— 私は、キリ短に来て満足していますし、勉強できると思ふ。

— たとえば図書館で学生の態度を見ていとも駄目。とにかくうるさい。静かにして下さい、なんて声をかけると、逆にキツとにらまれるし。図書館では勉強なんてできない。学生の意識の低さに原因があると思う。

— 図書館に限らず、マナーが悪いですね。授業態度も。座席を見ると馬蹄型になって、後部と窓際がふさがって、前と真中はガラ空き。私話したり。講義のない学生が廊下の通りすがりに授業中の友人に手をヒラヒラさせ合図を送るのがいる。

— 試験前になると、ノートを貸してくれなんてネ。(笑)

四、風化するキリスト教主義

キリ短でなければ作りあげられない思想とか価値、伝統がないですね

キリスト教主義というのは？

— あつ、そこら辺にあつたのですか。今頃気付いたりして(爆笑) (以下三面につづく)

キリ短生自己分析

風化する？キリスト教主義

(二面よりつづき)

キリスト教主義というのを意識しないんですか

— いえ、意識はしています。

— 私はアンチ、クリスチャンだったんです。でもキリスト教という科目があるのは嬉しかった、なにしろ、キリスト教を内側から見ることができたのだから。実際には講義に出てガツカリ。でも講義があること自体はいいですね。

— ある程度キリスト教には興味があるわけです。しかしそれを深く追求する事はない。授業の中では、先生方の意見、考え方が伝わってこない。私たちは、こう何故キリスト教があるのか、信仰に対する生き方等の意見はなぜそうなのかを知りたい。しかし、遠まわりし遠まわしで、まつとくに質問に答えてもらえない。歯痒いですね。だから、上辺だけの理解にとどまっている。

— 本音が出てこない

— 授業の中で先生方の個人的な意見や思想、見解が提出されないのは、宗教を押し付けまいとする配慮なのだろうか。その為に、学問として聖書を研究するという態度になるのか

— 教師個人の意見を語り始めたとしてもそれだけでは収まらないと思う。だからキリスト教なるものを客観的に説明するだけで終ってしまったている。

— クリスチャン学生から見ると授業内容にも足りない。本質を突いていない不満がある。

— ノン・クリスチャンにも別な意味で不満があります。

— 募集要綱の入学資格に、クリスチャンであるか否かは問わないと書いてあるにしても、入学して来た学生を放つたらかしていると思う。自由放任です。強制をしない。

キリスト教科目は必修なのだが、特別に布教活動はしないので、気楽に受講できました。建学の精神がキリスト教主義というだけですね。あまり影響を受けたとは思えない。

— 神様ということで良心的な人が多いと思う。ただし、いわゆるキリスト教の独自性は期待できない。キリスト教主義が何か指導してくれるという風には考えない方がよい。自分たちで考えていく、神様に喜ばれることを考えていく、誰かがやってくれるだろうでは何も進展しない。

キリスト教主義には別に抵抗を感じません

— 月曜礼拝には出席していますか？

— 、、、

— 出席しない理由は？

— お堅いですね、不自然さを感じてしまう。

— 異和感かな？全然ちがう所に行くという感じで、すつとく勇

五、祭の終焉か

学院祭をやるかやらないか、もう一度考え直す必要がある

— つぶしてもいいんじゃないかと考えるわけですか

— 行事のための行事という感じで一部の学生だけのものになつてしまっている

学院祭はやるべきものと考えるのはおかしい

— 保育科は子供相手がいいと思うのだが、展示会という英語科では、小物店ばっかりで、何か研究して発表するということがない。高校の文化祭の延長でもないし、まして大学らしさが見当らない。発表内容は質しく、ヤル気そのものがない。

— 例年、学院祭の反省録に載っているが、学生の意識は低い。

— ミーティングを待とうと思つても、一般学生はおろか、学院祭実行委員さえも集まらない。

— 学校全体をあげて何か行事をやる時、関心が薄いですね。スポーツ・デーだって同じ。

学院祭も一週間ぐらい前から準備を始めたりで、自分たちの研究や勉強しているものと関連づけて成果を発表するという姿勢がなくて、単にお祭り騒ぎしか念頭にない

学院祭はもつともつとアカデミックであつていいと思う。

— パザールとかそんなものではなくて、大学らしいものをやりたい。

学院祭はもつともつとアカデミックであつていいと思う。

— パザールも一種の研究発表じゃないかと言ひ出す者がいたり。

英語科は手っ取り早い方法を選んでしまふわけよ。十分に時間をかけて一つの事に取り組む意欲に欠けるところがある。

発表の材料がないわけではなくて、それにして、パザールやるくらいなら学院祭を廃そうというのは短絡している

英語科自身も、何でこんなことやっていのかとジレンマはあるわけ。だけれどもこれを問題に取りあげて討論しない

— これこそキリ短生の改善すべき問題でしょう

学院祭が悪いというのではなく、学生が悪いんだ

— ひとつの勉強にしても、たとえば文学的に追求するとして、その前に英語力がないといけないでしよう。力がついて来たと思つたらもう卒業。

カリキュラムも影響していると思う。保育科は、ほとんどクラス単位で行動している。授業もリポートも、そして製作もグループ、ワークしないと、

六、残す言葉

— 得られた経験がその学年一代限りで終つてしまひ、後輩に受け継がれない。だから一、二年生が共同交流できる機会が欲しい。

卒業した後も後輩とは無関係になつてしまふじやないかなだから、クラブに顧問制度を導入して、O・B会など顧問を軸として関係を継続させたい

— ゼミをやりたいです。課題が与えられて、合宿したり時間をかけて発表する材料を練つたり。アカデミックなことがやりたい。

— 卒論はどうですか

— いいと思う。刺激と緊張感を持続するためにも。

【おわり】